

渡来人の活躍と仏教伝来について				
出版社	頁	項目名	記述	コメント
大阪書籍	25	中国・朝鮮との交流と渡来人	そして、こうした機会に、朝鮮から日本に大量の鉄がもたらされました。また、中国や朝鮮の人々が一族でまとまって日本に移り住むことも増えました。これらの人々を渡来人といいます。渡来人は、日本の各地に住んで、土木・建築、馬具や金属加工、高級な絹織物、高温で焼いた質のかたい土器(須恵器)をつくる技術や、漢字・儒教・仏教などを伝え、日本の技術や文化に大きな影響をあたえました。	半島から移り住んだ渡来人が伝えた技術と、百済王の派遣した博士や使者により伝えられた儒教・仏教を同列にあつかうのは適当でない。
教育出版	21	渡来した人々	大陸との関係が深まると、朝鮮から日本に移り住む人々がふえました。これらの渡来人は、おもに近畿地方に住み、大陸の優れた技術や、仏教・儒教などの思想を伝えました。渡来人はまた、漢字をつかって記録をつくり、財政や政治などでも活躍しました。	
清水書院	34～35	ヤマト王権の支配	また、中国や朝鮮半島のすすんだ文化を積極的に取り入れ、倭に移り住んだ人々を重要な役職に用いた。こうした渡来人のなかには大王家と婚姻関係をむすぶ一族もあった。 【コラム】渡来人は、用水路や古墳をつくる土木技術、鉄製品をつくる鍛冶、かたい質の土器(須恵器)や機織りの技術を伝えた。また、漢字や儒教が伝えられ、6世紀のなかごろには、百済の王から仏教も伝えられた。これらの文化は、その後の日本の宗教や文化に大きな影響をあたえた。	仏教が百済の王によって伝えられたことを正しく指摘している。
帝国書院	32	蘇我氏と聖徳太子	ヤマト王権では、6世紀になると、豪族たちの対立や争いが激しくなりました。この間、朝鮮半島や中国から多くの人びとが移り住んできました(渡来人)。	
	33	【コラム】渡来人の活躍	渡来人は、土器や鉄器の製造や機織りなど、毎日の生活に役立つ多くの技術を伝えました。さらに、漢字を用いる渡来人は、記録や、中国や朝鮮半島の国々への手紙を作成するなど、ヤマト王権のなかで、重要な仕事にたずさわりました。6世紀には、仏教や儒教を伝え、日本の人々の信仰や文化にも大きな影響をあたえました。	他社同様、儒教・仏教が伝えられたのは渡来人ではなく百済王によるものなので適当でない。 33ページのコラム【仏教】では「日本には、6世紀に、百済から仏像や経典が伝わりました」と正しく記述されている。
東京書籍	27	大陸文化を伝えた渡来人	朝鮮の諸国との交流がさかんになると、朝鮮半島から日本列島に、一族でまとまって移り住む人々が増えました。こうした渡来人は、鉄製の農具を広め、かんがい用の大きなため池をつくる技術のほか、かたい質の土器(須恵器)や高級な絹織物をつくる技術を伝えました。渡来人はまた、漢字を伝えて、朝廷の記録や外国への手紙の作成にあたるなど、財政や政治でも活躍しました。漢字とともに、儒学の書物も伝えられました。6世紀半ばに仏教を日本に伝えたのも渡来人でした。	半島から移り住んだ渡来人が伝えた技術と、百済王の派遣した博士や使者により伝えられた儒教・仏教を同列にあつかうのは適当でない。

日本書籍 新社	36～37	渡来した人々と文化	<p>倭国と朝鮮や中国との往来がさかんになると、倭国に移り住んでくる朝鮮や中国の人々（渡来人(注)）がふえた。倭の大王を中心とする朝廷は、渡来人をおもに近畿地方に住まわせて、大和政権につかえさせた。これらの渡来人は、ため池などの新しい土木技術や、かたい質の土器(須恵器)づくりや鍛冶・養蚕・機織りの技術を伝えた。そのため、農業・工業が発展し、大和政権の力が強まった。</p> <p>また、6世紀の半ばに、百済から仏教の経典や仏像などが伝えられた。仏教は儒教とともに、のちの人々の信仰や文化に大きな影響を与えた。</p> <p>(注)9世紀に、畿内(p. 42地図)に住む氏の祖先を調べた記録によれば、約30%が渡来系の氏であった。</p>	<p>仏教経典や仏像の伝来を、渡来人の活躍と区別して、百済から伝えられたことを明記する。</p>
日本文教 出版	17	渡来した人々	<p>大陸との往来がさかんになると、日本に移り住んでくる人々がふえた。朝廷や豪族は、これらの渡来人を手あつくむかえ、進んだ文化をとり入れようとした。その結果、土木や鍛冶、養蚕や機織り、土器づくりなどの新しい技術が伝えられ、漢字や暦、儒教、仏教などの知識がもたらされ、生活の向上と文化の発展に大きな役割をはたした。</p>	<p>半島から移り住んだ渡来人が伝えた技術と、百済王の派遣した博士や使者により伝えられた儒教・仏教を同列にあつかうのは適当でない。</p>
扶桑社	33	帰化人と仏教の伝来	<p>5世紀から6世紀にかけて、大和朝廷が朝鮮半島の政治に積極的に関与した結果、朝鮮半島を通じて、中国の進んだ文化が日本にもたらされた。</p> <p>中国や朝鮮半島から一族や集団で日本に移り住んだ帰化人(渡来人)は、土器や金属器の加工、土木建築などの技術を伝え、漢字による朝廷の文書の作成にも力を発揮した。漢字使用の定着とともに、儒教の書物も伝えられた。</p> <p>また6世紀には、百済の王が日本の支援を求めたさい、仏像と経典を大和朝廷に献上し、仏教が日本に伝来した。</p>	<p>唯一、「渡来人」ではなく「帰化人」という表現を使用している。帰化人という言葉には、天皇の徳を慕ってきたものとする意味が含まれているため、この時代の渡来者を表す用語として不適當であるし、そのため今日では使用されない。したがって、教科書で使用するのに適當な用語ではない。</p> <p>朝鮮半島から渡来人がやってきたのは、朝鮮半島における政治情勢の変化などに原因があるのであって、「大和朝廷が朝鮮半島の政治に積極的に関与した結果」であるとするのは適當な表現とはいえない。</p> <p>また、百済王が大和朝廷に服属していたわけではないので、身分の上下が前提となる「献上」という表現は適當でない。</p>